

上杉隆氏「記者クラブの罪」講演要旨 3回連載 ③情報のガラパゴスにいる日本人

メディアの情報は管理されている

隠蔽される実態—事実が反映されない日本の報道

昨年12月、理事会でフリージャーナリストの上杉隆氏を講師に招き、自由な報道を阻害する既成勢力との闘い、問題事実などについて講演をいただいた。講演の要旨を3回に分けて掲載する。(文責：編集部)



自由報道協会

発起人である上杉氏が代表を務める協会。国民の求める「知る権利」「情報公開」「公正な報道」を達成するため、日本全国の公的な記者会見の開放を訴え、記者会見を代行主催する非営利団体。

上杉隆(うえすぎ たかし)氏
フリージャーナリスト。自由報道協会代表。



~~~~~

### 1. ウィキリークス報道の歪み

#### (1) 「アサンジ、婦女暴行で逮捕」と報じる日本メディア

ウィキリークスの問題も起こりました。

ウィキリークスが流した公電で、1966年以降の一番多いのは当然ながらアメリカ、2番目がトルコのアンカラ、3番目が日本の東京なんです。日本が世界で3番目に多い情報が流れているのに日本の新聞もテレビも当初は一社も報じませんでした。

全世界のメディアはウィキリークスについてトップニュースでずっと報じていました。そして2010年12月7日、ウィキリークス創設者のジュリアン・アサンジが逮捕されたとき、午後7時20分ですけど、全世界のメディアが速報で、ぶち抜きで、ニューヨーク・タイムズは7面ぶち抜き、ワシントンポストもそうですし、ルモンドもウィキリークスでした。中国の新聞もそうです。テレビは全部、ずっとウィキリークスを報じていました。

日本はその時間、NHKの9時のニュースは、市川海老蔵が46秒間謝っている映像を流して、11分間それをトップニュースにしていました。そして次にウィキリークスをやっと報じるんですが、「暴露掲載のジュリアン・アサンジ、婦女暴行で逮捕される」ということを流しました。

世界でそういうふうに報じている新聞は一社もありません。日本は全部、「記者クラブ」が外務省から、「ジュリアン・アサンジは日本政府とアメリカ政府の共通の敵である」、「ジュリアン・アサンジは婦女暴行だ」というペーパーを配られているので、そのとおりに報じているのですね。

でも海外のメディアは、当然ながら婦女暴行でもいろいろありますから、調べます。各国のメディアが報じたのは、性行為の際にコンドームをつけなかった、セックスの最中に女性に体重をかけすぎた程度の4点です。ところが、ウィキリークスが25万点を暴露した瞬間に、もう一回英国検察側が再度起訴して逮捕したのです。

#### (2) 問題は「アメリカの危機管理」が世界中の論調

世界中のメディアが、これは政治的な陰謀じゃないかといって、ブラジルの大統領、オーストラリアの外相を含めて、この逮捕は不法だと言って反論しているのです。世界中の多くのメディアが、政府の一部が、ジュリアンが悪いんじゃないだろうといえます。

むしろ問題はアメリカの危機管理、要するにドキュメントの管理の不備にあるし、さらには、そうやって帝国主義外交をやっていたということがばれたアメリカが問題だろう、というのが世界中の論調ですね。

ところが日本だけは「ジュリアン・アサンジ、元ハッカーで強姦魔は許せませんね」と名前は言いませんけれども、現場にも来ない御立派な評論家の方々、ただの一度も永田町で見たことない人たちが、「許し難いな、ウィキリークスはテロ組織です」と言うわけです。

日本のテレビ、新聞は正しい情報だからとみんな信じて、ほとんどの人が「ああジュリアン・アサンジってとんでもない、レイプか何かした人でしょう」という認識

が広まっているということなのです。

週刊文春、それからダイヤモンド・オンラインで「ジュリアン・アサンジが釈放されて出てきたら、日本メディアの報道に対して名誉毀損で全社を訴えてほしい」と書きました。賠償金が何億円になると思いますので、活動資金にしたらいいのではないかと。

世界で唯一なんですよ、こういう報道をしているのは。

### 2. 報道の自由がない日本

#### (1) 海外メディアが東京支局を撤退

「記者クラブ」問題でちょっと残念なのは、ついに海外メディアの支局が東京をどんどん撤退しているのです、この2年間で。

5年前に東洋経済に書いたのですが、「記者クラブ」制度はいよいよ厳しいことになってきたと。それは各メディア、いろんなメディアが、東京はちょっとお金がかかり過ぎる。中国の方がどちらかという安く、さらに大国化してきて、中国の方が国力として上がってくる可能性がある。ということを察したメディア、CNNとかが、中国へ支局を移し始めた。このまま歯止めをしないと、そのうち日本の東京支局が空っぽになってしまうというふうに書いたのですね。

これの最大の問題は「記者クラブ」だと。例えば「記者クラブ」があるから取材ができなくて人件費もかさむわけです。普通に記者会見に出れば聞けることも、一回一回共同通信と契約する。さらには終わった後にその資料をもらいに行く。会見も出られないですから、取材もはかどらない。こんなことをやってるんだったら、自由な中国の方がいい。ということになるのではないかと。いったらみんな笑うわけですね。「中国のどこが自由なんだ」と。

実際それから5年たちましたけど、去年、一昨年で東京支局が全盛期の3分の2ぐらい消えました。

全盛期には、世界中から東京支局にみんな集まってきたのです。アジアの中心ですから。東京支局と言っても、ニューヨーク・タイムズもそうですけど、アジアの支局なんですね。

タイムズの東京支局で、当時そこで記者をしていた頃、全員で11人なんですけど、日本と沿海州、それから朝鮮半島、台湾、そしてフィリピン、インドネシアの政治・経済・文化全部を11人で見るわけです。これはどの社も一緒ですね。ブラジルの新聞もそうですし、ヨーロッパの新聞も、中南米の新聞も、どこも東京に支局を置くのは日本の国力、やはりアジアの中心で、そこから情報発信するのが一番ということでやってたわけです。

ですから戦中、太平洋戦争の最中も、ニューヨーク・タイムズ、ワシントンポスト、それからLAタイムズも含めて、敵である、戦っている国のもと東京にストリンガー、通信員を置いて、東京発のニュースを報じるわけです。そこまでしていた支局がどんどん撤退してる。これは大変なことになってきたということなのです。

#### (2) 人民日報「報道の自由がある中国」 顔く海外記者

そして2010年1月8日に出た人民日報に、「これま

で伝統的に海外メディア、アジアの情報は、1世紀以上にわたって日本の東京というのが中心でそこから発信していった。「ところが今や我が中国に支局が殺到している」と。「これは我が中国の国力が変わったというだけではなく、『記者クラブ』制度がなくて報道、表現が自由で、メディアにとっていい環境だからだ」と書かれているのです。日本語版もありますから、これをみんな日本の記者に見せたら、みんな笑うわけですね。日本の記者は笑うんですけど、海外の記者はだれ1人笑わないんです。そっだよなというふうに言うんですね。

#### (3) 日本にはメディアはあるが、ジャーナリズムはない

海外は、例えば中国なんてメディアがないわけですね。人民日報と新華社の政府系のメディアしかないわけですね。北朝鮮もないですね。リビアもキューバも事実上ないわけですね。

ところが、そういう国全てに、世界中にはジャーナリズムがあります。殺されようが何だろうが記者会見に入っていくって、捕まって拘束されて死んでる記者が、ロシアも含めて年間大体150人ぐらいいるんですけど、日本はただ1人もそれで死んだことないですね。

ですからFCCJ(日本外国特派員協会)の仲間たちは、日本はきちんとしたメディアはいっぱいあるけど、でもジャーナリズムはない、1人もいないと言います。

それなのに日本人記者はみんな笑うわけですね。「何で中国なんかと一緒にするんだ、表現の自由もないのに」と。ところが中国の記者も含めてみんなそれを笑わないというのは、それは日本が一番不自由だと思っているからなんです。

### 3. 情報のガラパゴスにいる日本人

この前、ニューヨーク・タイムズ時代の同僚、彼は北京支局なんですけど、彼と3時間半ジャーナリズムについて話したのです、ツイッターも含めて。

最後に彼は言いました。「中国の人はみんな、要するに情報のガラパゴスにいるんだ。新華社だって人民日報だってそういう政府のところの情報しかない。「ただインターネットを隠れて見て、そこに情報があると思ってる。みんな一生懸命やってる、探ってる」と。

「でも中国の人は、全員ほとんど自分たちが情報のガラパゴスにいることを知ってるんだ」、「ところが何で日本人はこんなに自由なのに、情報のガラパゴスにいて、政府の発表した『記者クラブ』情報を真実だと思ってるんだ」と。

つまり中国も北朝鮮も、国民は、自分たちが情報のガラパゴスにいるという認識をしてるんですけど、世界で唯一、日本人だけがガラパゴスにいるのにガラパゴスにいることを意識してないんだというのです。大丈夫かと。ダメだろうと答えました。

日本の「記者クラブ」の問題点のごくごく一部を紹介しましたが、この辺で終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

(了)